

## 【大東市版ブロックチェーン構想～創作工房一志家具製作所編～】

大東市版ブロックチェーン構想の一環として、「ものづくりコネクト」にご参加頂いている企業の発信内容をご紹介します。

第3回は、「課題解決のためのデザインを具現化」  
創作工房一志家具製作所を紹介します！

### 課題解決のためのデザインを具現化

大東市の大東町に創作工房一志家具はあります。  
想いをくみ取るものづくりを信条に従業員4名と別注家具を中心に店舗内装などをてがけています。



### 【市川代表の原点】

長野県で生まれ育った市川代表、教員でもあり、陶芸家のお父さまと草木染をされていたお母さまと、自然に囲まれた場所で成長されました。

小さいころからものづくりの興味があり、常に何かを作っているといった少年時代だったそうです。

ものづくりに対しての想いや、木に対しての想いは子供の頃の環境が大きく影響をされているように思います。

中学 2 年の時に家具職人になろうと決め、高校のインテリア科を卒業。その後、家具の専門学校へ入学。専門学校を卒業したのち、最初は家具の量販店に就職、営業販売に従事。その後ギターを作る会社に転職するも、やはり家具を作りたいとの思いから大阪へ。

その後、技術と経営経験を身に付け、40 歳の時に独立。

そんな市川代表の人柄がよくわかるプロジェクトが創作工房一志家具製作所のある大東市で 2023 年に行われました。

## 【みんなで作る新しい本屋】

大東市に 2021 年公民連携事業で出来た新しい街「morineki」。

そこに 2023 年 10 月新しいお店が誕生しました。

小中学生から大学生、地域の方々みんなで DIY して作ったお店です。

市川代表は初めて触る木材や、機械など戸惑う子供たちにもものづくりの楽しさを伝え指導されました。



## 【工房での作業】

9月のある日曜日、この日は工房で高校生、大学生に機械の使い方を教えながら、本棚の材料となる木の裁断を行いました。

本棚の設計をする中で、大学生から出てきたデザインに対して、「いかに1枚の木材をロスなく使うのかを考えてデザインをしないといけない、このデザインでは歩留まりが悪い」。

実現したいデザインと使う人、資源のことを考えてデザインする必要があると、指導されました。



## 【もりねき書店で子供たちと本棚製作】

同じく9月の日曜日この日は先日裁断した材料を使用しての本棚製作です。

集まった多くの子供たちに「作業ではなくて、その先にある使う人のことを考えてものづくりをしましょう」と伝えられました。

作ることが目的ではなく、使う人のことを考えながら製作する。  
まさに普段のものづくりの姿勢が良く出ている言葉だと感じます。



次回は

「2024年1月大東市ネウボランドだいたうで使われる大阪産業大学の学生が、デザインした北欧家具を共に作るプロジェクトのお話」と「北欧のキッズソファが子どもの成長に与える影響は？」

というテーマで、市川代表の想いにご期待ください。